

勝山城跡学術調査 事業がはじまります

川棚にある勝山城跡は、中世（戦国時代）に築かれ近世（江戸時代）に至るまで使用されたと考えられています。

戦国時代に当地を治めた小山田氏の谷村館に伴う要害（詰めの城）として、戦国時代の末から江戸時代の前半にかけては谷村城（現在の都留市役所、谷村第一小学校の位置）に属する山城であったという歴史的には二つの意義付けがなされています。

小山田氏が館を中津森から谷村に移転したことに伴い、要害として築城された可能性も指摘されてきましたが、資料的に根拠に乏しく、小山田氏の滅亡以降に浅野氏（豊臣秀吉の家臣）によって築城されたとする説もあります。城がいつ築かれたのかは考古学的な発掘調査によらなければ分かりません。

江戸時代の宝永元年には、最後の城主である秋元氏が川越藩へ転封となり、勝山城は廃城となったと考えられます。秋元氏が支配していた時期は、甲斐国内（現在の山梨県）において郡内地方は国中（甲府盆地を中心とした山梨県中西部地方）とは異なり谷村藩として独立していました。さらには、將軍家御用の茶壺を預かったとする施設（茶壺蔵など）が存在した可能性も従来から指摘されており、特殊な性格をもつ城跡であることも考えられます。

勝山城跡を「誰が」「いつ」「何のために」作ったのか、「どのように」使われたのか調べることは都留市だけでなく、山梨県や日本の歴史を考える上でもとても重要なことです。それらを調べて行くために勝山城跡学術調査事業を今年度から五カ年計画で実施いたします。

市民の皆さんのご理解と小山田氏や秋元氏などの資料の提供にご協力をお願いします。

問合せ ミュージアム都留 ☎(45) 8008



都留市文化祭開催

第50回都留市文化祭が11月1日から3日まで文化会館を中心に盛大に開催され、日ごろの文化活動の成果が発表されました。また、式典では次の方々表彰されました。



◎文化功労賞受賞者

故重原安雄 郷田 至 野沢得子 長岡達男

◎一般の部

文化祭賞

俳句 鈴木恵子 短歌 渡辺貞次
絵手紙 河野貞子 陶芸 畑中由美子
趣味の会 清水 明 さつき・盆栽 佐藤政利

入選 短歌 小笠原 勇

佳作 短歌 白井タニ子 中埜つね子 大野三朗
渡辺きみ江

【文化祭テーマ 入賞者】 最優秀賞 佐々木さだ子

【文化祭俳句大会入賞者】 文化協会会長賞 志村芳春

俳句連盟会長賞 堀内たつ乃

一位 藤江極子 二位 小林清子
三位 山田美佐子 四位 平井芙蓉

◎小学生の部

【詩 入賞者】

文化祭賞 東桂小 平井一弥
入選 谷一小 井上果歩 井上輝人
東桂小 井出健太 加藤莉菜 米谷文直
谷合 空
宝小 雨宮来勇 橋中孝明 長田龍磨

【俳句 入賞者】

文化祭賞 谷一小 小林直也
入選 谷一小 上田果穂 庄司未来 滝口健太
本多正弥 澤井香奈 岩澤貴弘
小川たえ 白川理恵 重原万季
餌取秀才典
附属小 高部智里 尾曲泉純

東桂小 小林衿花 安富大介 佐藤智美

天野 麗 遠山裕加里

宝小 橋中孝明 佐藤史弥

禾一小 吉村冴加

禾二小 平井柊土

旭小 清水 諒 小幡沙也加

【短歌 入賞者】

文化祭賞 谷一小 石井美季

入選 谷一小 花園龍智 稀代祐子

佳作 谷一小 近藤椋斗 柴山雄大

東桂小 高部真那 永田美月 志村知香

小太刀裕介 渡邊実乃里

宝小 小宮彬史 佐藤史弥

旭小 藤井拓弥

◎中学生の部

【詩 入賞者】

入選 東桂中 日向 愛 神戸歩美 鈴木貴幸
天野孝太 堀内 純 小川みずほ

【俳句 入賞者】

文化祭賞 都一中 中野真吾
入選 都一中 程原祥子 加藤里実 川崎愛理
小林拓磨 藤井 将 天野 俊
森屋充正 権守彩香 清水 士
亀澤明憲 白川美樹 武藤早映子
山口いづみ
東桂中 志村詩織 渡辺香澄 中野莉生
柴田美里 田中太朗 佐々木里菜

【短歌 入賞者】

佳作 都一中 土屋里紗